

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台百年記念誌資料―その2-22-3―東京天文台年表(昭和7～13年)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞346号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その1―」、349号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その2―」、353号に「東京天文台100周年記念誌作成時の資料―その3―」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱3個に入っていたので1箱目を―その1―、2箱目を―その2―、3箱目を―その3―としたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いもののかつてにピックアップして書いている。今回は2箱目の22項目について報告したい。第349号のリストには、29項目のリストがあり、それぞれの項目に更に多いものは46件のサブリストがある。今回は東京天文台の年表についての資料を記事にしてきたので、2箱目の関連資料をつまみ食いすることにした。2箱目の22項目目に、

22) 大正元年～昭和23年と書かれた封筒 年表の原稿 39～84ページ

とある。今回は、この原稿のP61(昭和7年)～P71(昭和13年)までの年表を載せる。

この間の主な事項には(筆者が勝手に行間調整のため選んだ)

- 1) 昭和7年10月下旬:東京天文台報第1巻第1冊発行
- 2) 昭和7年:国際天文同盟第4回総会がアメリカ・マサチューセッツ州ケンブリッジで開催(平山清次、及川億郎、野附誠夫が参加)
- 3) 昭和7年:カールツァイス大赤道儀(口径65cm、焦点距離1020cm)据付工事終了、目下試験観測中
- 4) 昭和8年:藤田良雄(東大助手)が富士山頂で太陽スペクトルの観測を行う
- 5) 昭和8年:クック30cm写真儀購入
- 6) 昭和8年～14年:三鷹の工事、第一赤道儀室、太陽写真儀室兼天体分光儀室、連合子午儀室、時計庫、子午環儀室、天体写真儀室、卯酉儀室、赤道儀室、第一子午線標室、第二子午線標室、太陽分光写真儀室、大赤道儀室
- 7) 昭和10年3月30日:東京天文台彗星望遠鏡室を新築
- 8) 昭和10年4月25日:萩原雄祐が東大天文学教授
- 9) 昭和10年:東京天文台で65cm望遠鏡の再調整を開始(～1938年、主任関口鯉吉)
- 10) 昭和11年3月31日:東京天文台長早乙女清房停年制により東京帝国大学教授の職を退き東京天文台長を退く
- 11) 昭和11年4月15日:中央气象台技師関口鯉吉4月15日付東京帝国大学教授に任ぜられ東京天文台長に補せられる。

昭和	要	項	出	典	カードNo.
7 (1932)					
7 2 和	有上四郎 東京天文台助手 東京天文台主任。健康が優れず、その行状。大正7年以後、東京天文台で早稲十博士の下に太陽分光写真観測に力を入る。		月. 25-4, p. 77 (昭. 7. 4)		527
7 5 13	中野徳部が死去。(明治7年生。(海軍水路部技師として経度測定航海天文学に業績)		科学史研究 才17号		18306
7 8	8月2日極地観測年に(1933年7月)に幸り、東京天文台で学術式報時を中文無電局より発信(1927年コペンハーゲン国際気象台長会議の要請による)		科学史研究 才17号		18301
7 8 31	北ホーン川川アルフレッドで皆既日食。東京天文台平山清次、及川奥郎、野附誠夫が出張観測(昭. 7. 昭. 7. 11)		科学史研究 才17号		18300
7 8 31	皆既日食の観測。白雲国東部 及川奥		学術大観 p. 558		12001
7 9 24	中村 要が死去(京天文学助手としてレンズ製作、天体観測に長ず)		科学史研究 才17号		18307
7 10 下旬	東京天文台報 才1巻才1冊発行。東京天文台から和文研究報を祭刊刊行とヒリ 10月下旬発行。祭刊の終、東京天文台の太陽黒点の観測。日本天文学会要報 才1巻に掲載の東京天文台関係者の論文抄録。他。		月. 25-12, p. 236 (昭. 7. 12)		1007
7	「東京天文台報」 初号		学術大観 p. 297		12035
7	東京天文台報の発行		科学史研究 才17号		18309
7	岡田鯉吉(中央气象台技師)が富士山頂で太陽紫外線強度を測定		科学史研究 才17号		18302
7	国際天文同盟才4回総会がマサチューセッツ州ケンブリッジで開催(平山清次、及川奥郎、野附誠夫が参加)		科学史研究 才17号		18303
7	京大生駒山天文台で61cm反射鏡を輸入		科学史研究 才17号		18304
7	東亜天文協会が黄道光観測のロケットを財団より補助金を与く		科学史研究 才17号		18305
7	川崎俊一(水沢緯度観測所技師)が英ケリッジ天文台へ留学		科学史研究 才17号		18308
7	カール ツァイス 大赤直儀 (口径 65.0 cm, 焦点長 1020 cm) 据付工事終了 目下試験中		東京帝國大学一覽		16056 (昭. 6. 8年最新刊の天文)
7	物会による人事 技師 10		天文台関係法合集		14010
7	職員 (昭. 7. 11 のついでに) 技師 野附誠夫		東京帝國大学一覽 昭. 8		16079
7	観測 東京才9巻の小惑星 (神田)		月. 25-4, p. 75 (昭. 7. 4)		5030
7 12 27	和合才385号を以て東京天文台官制を改正し専任技師の定員を減らす		東京大学一覽 昭. 44-45		(一覽に記入)

期 日	事 項	出 典	コード
8 (1933)			
8. 3 末	東京天文台報 第一巻 第二冊 (第一号) 発行 東京天文台の子午線による観測報告 (中野三郎), 小行星の位置 月の経観測 (辻 光三郎), 局部小行星の運動について (鈴木 政敏), フンシー周期彗星について (神田共), 東京天文台に於 ける時刻測定観測報告 (1931年度), 東京天文台に於ける太陽 観測 (1932年10月~12月)	月. 26-5, p. 98 (昭5.5)	1008
8. 6	報時形式の改正 昭和8年6月逓信省告示 第1473号 9月1日より実施. (JTC 昭8.4.17) 刊 船橋無線電信局を通し午前10時 午後8時 学用報時	東京帝国大学一覽 昭11	16054
8	東京天文台の標準時無線放送に日本式を廃止して学用式を採用	科学史研究 才17号	18313
8 7. 25	東京天文台報 第一巻 第三冊 7月25日発行.	月. 26-9, p. 177 (昭5.5)	1009
8	2回 国際経度共同観測に参加 (東京天文台, 橋元昌英, 辻光三郎, 宮地政司, 秋田, 山形, 北沢地方を測量, 京大土田儀が関西 地方を測量)	科学史研究 才17号	18310
8 12 25	東京天文台報 第一巻 第四冊 発行 1934年2月13~14日の日食の改正要序について (石井厚雄) カラスコ彗星 (1931年) の軌道要素について 才2版, 他	月. 27-2, p. 38 (昭9)	1010
8	藤田良雄 (京大西学) が富士山頂で太陽スペクトルの観測を 行う.	科学史研究 才17号	18311
8	中野三郎 (東京天文台) がゴーン環で恒星の赤 経を測定	科学史研究 才17号	18312
8	14 - 15 天文台長 Fayet 来日	科学史研究 才17号	18314
8	木村宗がリスボンでの国際測地学同盟第5回総会に出席 し, 1922.0~1933.0の国際経度観測資料を報告, 併せて 経度変化の二次近似計算法を提案.	科学史研究 才17号	18315
8 12 20	12月20日 金星及び土星の掩蔽	科学史研究 才17号	18317
8	滿洲国新京の経度測量	学術大観 1552	12004
8	会費消息	月. 26-9, p. 177 (昭5.9)	528
8. 6 中7日	東京天文台教師 橋元昌英. 6月中旬より下旬に亘り滿洲国 に出張. 天文台敷地設定に関する用件.		
8 7. 下旬	東京天文台台長 今井 湊 上海に於ける自然科学研究所 物理学科の屋敷として赴任. 沈滄公の下に2年餘 観測に専ら.		
8 4.	天文学科卒業生 奥田豊三. 4月大学院入学.		
8 7	奥田氏並に前年卒業の胎部 忠彦 7月より遷東京天文台に 於て研究中		
8 7月中旬~8月	東京天文台長 藤田良雄 7月中旬より8月中旬まで富士 山頂にて太陽スペクトル研究 掖師 田中裕氏 指導による.		

昭和	要	項	出	要	No
8 (1933)	7.7 30cm 写真機購入		天文 100年 附年表		
8年 14年	三層の工事 才一赤道儀室, 太陽写真儀室兼天体分光儀室, 連合子午儀室, 時計庫, 子午環儀室, 天体写真儀室, 仰角儀室, 赤道儀室, 才一子午線標室, 才二子午線 標室, 太陽分光写真儀室, 大赤道儀室	津守大学 50角造	11008		
8	小惑星「東条第一」	月. 26-4, p.72 (昭5.4)	5031		

昭和	要	項	出	典	号	No.
9 (1934)	皆既日食の観測	南洋ロ-ソフ島の 早乙女他 (晴成地時測)	学術大観	p.558	1200/	
9 2 14	南洋諸島で皆既日食, 東京天文台・京大の台班が軍艦		科学史研究	第17号	18319	
	春日の輸送によりロ-ソフ島に出張観測					
9 6 和	東京天文台報 才2巻 才2冊 6月末日発行		月.27-8,	p.158 (昭7.8)	1011	
	アソ東部の掩蔽予報に関する二,三の注意 (研査佐藤鎮夫)					
	銀河系外星雲に関する統計 (清水 三郎)					
	小惑星の軌道の調査報告 才4報 (神田茂, 広瀬秀雄)					
	1930-31年に於ける173エロスの光観測 (神田茂)					
	東京天文台に於ける太陽観測 (1934.1~3月)					
9 9 和	東京天文台報 才2巻 才3冊 9月末日発行		月.27-12,	p.236 (昭7.12)	1012	
	・南洋ロ-ソフ島の経度及緯度 (中野三郎)					
	・1934年2月13-14の日食観測から求めた月と太陽の位置並に視半径について (石野重雄, 窪川一雄, 虎尾正久)					
	・レポソルト子午儀の軸について (予報) (辻 光之助)					
	・小惑星の軌道の調査報告 (才5報) (神田茂, 広瀬秀雄, 宮地政司)					
	・シワスマン・ワハマン週期彗星 (1929年才1) の回歸について (神田茂, 広瀬秀雄)					
	・東京天文台に於ける太陽観測 (1934年4~6月)					
9 12 25	東京天文台報 才2巻 才4冊 12月25日発行		月 28-3,	p.51 (昭10.3)	1013	
	・野外台経緯度観測の誤差 (辻 光之助)					
	・小惑星の軌道の調査報告 (才6報) (神田茂, 広瀬秀雄)					
	・三鷹村東京天文台の時刻測定に於ける173星の赤緯による系統的誤差 (水野良平)					
	・子午儀の軸の理論 (宮地政司)					
	・東京天文台の時刻観測の誤差 $\Delta\alpha$ の意義 (宮地政司)					
	・彗星彗報 (一) (神田茂)					
	・東京天文台の傾斜観測概報 (1932-33年度) (辻 光之助)					
	・東京天文台地下10mの時計庫の温度 (宮地政司, 加藤 一)					
	・東京天文台に於ける紅外線観測 (1933年7月~1934年7月) (昭10)					
	・東京天文台に於ける太陽観測 (1934年7~9月) (昭10.4場)					
9 12 15	ヘルクス座新星が出現 (光巻3等級)		科学史研究	才17号	18326	
9 12 18	東京天文台水晶共振時計室を新築		東京大学一覽	昭10.45	16041	
9	東京天文台でクワッ製12吋鏡を置入		科学史研究	才17号	18324	(昭和10年昭年表117 No.205号)
9	東京天文台で塔望遠鏡に於る太陽の分光観測を開始 (最初の主任は早乙女清彦) (科学史研究 才18号で補遺)		科学史研究	才17号	18321	
9	恒星の分光学的観測, ヘルクス座新星のスペクトル撮影 (奥田豊三)		学術大観	p.508	12021	
9	水晶共振時計 (昭和9年度に新設し目下試験中)		東京大学一覽	昭10.11号	16055	

昭和	要 項	出 典	冊 No.
9 (1934)			
9	官政政司が華島の経度台測量(1928の測定値より0.6"西に変化を察見)	科学史研究 才17号	18320
9	野外経緯度観測。(測地学委員会の垂直線偏差観測事業と関連) 測定値の表、遠隔地に於けるのは昭和9年、南洋ローソフ島(中野)	学術大観 654	12002
9	山本一清指簿の下に日本と琉球間で黄道光の視差の共同観測を行う。	科学史研究 才17号	18322
9	松隈健彦の東北大天文学教授	科学史研究 才17号	18323
9	南未日食に際し 木 Corn, Johnson 等により	科学史研究 才17号	18325
9. 1. 2	井上田部 死去。明治4年生。64才。神田区曙町共立学校。明.22.年。後 素行学校及順天社合 社等にて英教諸学科修得。横濱 P.O.汽船会社を以て大正7年東京天文台に早大助教の助手として、後東京帝国大学助手兼、助手として、太陽分光写真撮影に従事。素天文家として研究家として、明.33へルセロス彗星発見、21世紀流星、彗星観測等、天文台就職後、本稿の傍、北海道ウレネツ流星群観測等率先して観測に参り、明7.2月病を以て退職。(田代在神祀付記あり) 神日記	月.27-2. 6.29 (昭.9.2)	11
9.	勅令(政令)1113人事 昭和9年、助手10人	天文台関係法令集	14010
9. 9. 17	勅令才259号を以て東京天文台官制を改正し、専任助手の定数を増し、東北帝国大学理学部で天文学講座を開設	東京大学一覽 昭.64-65	東京大学一覽より
9	湖州国新案、国際経緯測量 技師宮地政司、技師辻光之助	科学史研究 才17号	18318
9	測地学委員会の仕事に、垂直線偏差観測の目的観測協定、字集あり	月.27-1. p.18 (昭.1)	11011
		月.27-10. p.198	11011

昭和	要	項	出	典	カ-ト No
10 (1935)					
10 3 30	東京天文台彗星望遠鏡室と新築		東京大学一覽	昭24-5 16040	
10 3 30	東京天文台報才三巻才一冊 発行		月. 28-5, p.86 (昭24.5)	1014	
	・ 水素の豊富なる星の大気における二重結合の解離 (藤田昌雄)				
	・ 小惑星の軌道の調査報告 (才7報) (神田茂, 石浜秀雄)				
	・ ヘルクス座新星の光変観測 (一) (神田茂)				
	・ 新築経度観測報告 (才一報) (辻光之助)				
	・ 東京天文台における太陽観測 (1934年10~12年) (藤田昌雄)				
10 3.	学界消息 理学博士 平山清次 昭和9年10月遷居に連し昭和10年3月停年により東京帝國大学教授の職を辞退。後任 理学博士 萩原雄祐 助教授より教授に。理学博士 鈴木政敏 助教授に昇任。		月. 28-5, p.86 (昭10.5)	529	
10. (4 25)	萩原雄祐が東大天文学教授		科学史研究 才17号	18335	
10	平山清次が東大名誉教授		科学史研究 才17号	18337	
10	学界消息		月. 28-7, p.122 (昭10.7)	530	
	・ 前東大教授 平山清次博士名誉教授に。				
	・ (天文学会特別会員) 鹿尾正久、三鷹村天文台で「エロス」彗星の測定を(2回)が、5月31日天文台の職員として時の観測に従事。				
10. 7 中旬	東京天文台報才三巻才二冊 発行。		月. 28-8, p.129 (昭10.8)	1015	
	・ 1933年12月20日の金星、土星の掩蔽の整約 (研童雄, 堀鉄)				
	・ 時観測に使用する方位角の値について (田代三三郎)				
	・ 二つの小惑星により求められた時計修正値の比較 (研童雄)				
	・ 小惑星の軌道の調査報告 才8報 (神田茂, 石浜秀雄)				
	・ ヘルクス座新星の光変観測 (二) (神田茂) 2次報告 4号				
10	学界消息		月 28-9, p.157 (昭10.9)	531	
	・ 天文台技師 橋元昌英、技師 中野三郎 文部省測地学委員会の手託により台湾 椰里付近 庚子山三角架の経緯度測定のため 9月12日 出発、約1ヶ月滞在予定。				
	・ 台湾 椰里に於ける経緯度観測を総括した橋元技師 中野技師 10月13日 帰台、26日 遊歴会		月. 28-11, p.194 (昭10.11)	531	
10	橋元昌英・中野三郎が台湾椰里の経緯度を測定。		科学史研究 才17号	18330	
10 10 25	東京天文台報才三巻 才三冊 (才11号) 発行		月. 29-1, p.15 (昭11)	1016	
	・ 1933-1934年の紅斑の統計 服部忠彦				
	・ 小惑星の軌道の調査報告 (才9報) (神田茂, 石浜秀雄)				
	・ JOAKの報時の措置 (宮地政司)				
	・ シェワスマン・ワハマン 週期彗星の軌道について (神田茂, 石浜秀雄)				
	・ 東京天文台の傾斜観測 報告 (1934年度) 辻光之助 他報告 三篇				

昭和	号	項	出典	カドNo
10	(1935)			
10	12	東京天文台報才三巻才四册(才12号)12月発行. <ul style="list-style-type: none"> ・小惑星の軌道の調査報告(才10報)(神田茂, 六郎他 5 名) ・東京天文台の観測修正値の若干年間的変化(水野正彦) ・1935年に於けるエロス彗星の観測(神田茂, 吉田正次) ・ヘルケレス彗星の光度観測(三)(神田茂) ・1936年6月9日の食について, 並に11日食観測に關する二三の注意(石井重雄) ・東京天文台の1935年恒星観測(1935年4月~8月) ・東京天文台の1935年太陽観測(1935年7月~9月) 	月. 29-3, p. 53 (0111)	1017
10		東京天文台の26吋望遠鏡の再調整の開始(1935年) 新聞 報告	科学史研究 才17号	18329
10		東京天文台で塔望遠鏡の完成	科学史研究 才17号	18328
10		東京天文台の塔望遠鏡について (藤田重雄)	月. 28-3, p. 37 (0219)	5032
10		東京天文台の塔望遠鏡の設計(板谷三郎)	月. 67-8, p. 213 (0245)	5157
10		水晶時計購入	学術大観 p. 445	12045
10		東京天文台で水晶時計を購入	科学史研究 才17号	18331
10		早乙女清房の「パリー」での国際天文同盟才5回總會の出席	科学史研究 才17号	18332
10		木村栄が国際天文同盟緯度変化部の名誉部長	科学史研究 才17号	18338
10		山本一清が国際天文同盟赤道支部(新編成)の部長	科学史研究 才17号	18339
10		日本天文学会 社団法人制に改められ, 会費 800名 「天文月報」発行, 年2回講演会を主として	学術大観 p. 477	12029
10		日本天文学会が 社団法人組織として新築足	科学史研究 才17号	18327
10		上田定成が京大天文学教授	科学史研究 才17号	18336
10		新城新蔵が京大校長を辞し 上海自然科学研究所長に 就任(京大名誉教授)	科学史研究 才17号	18334
10	2. 18	天崎信一が死去(中央气象台の太陽に關する統計的研究 に従事した)	科学史研究 才17号	18333
10		子午線の惑星観測開始	東京天文台報才11号	

(天正100年即今1623年)

0219

0245

年 号	要 項	出 典	頁 No.
11 (1936)	学界消息		
11. 3 31)	・東京天文台長 早乙女清房 停年制により帝国大学教授の職を退き、東京天文台長職を退く。	月. 29-5 奉天95 (0211.5)	532
11. 4 15	・中央気象台技師 関口鯉吉 4月15日付 東京帝國大学教授に任ぜられ 東京天文台長に昇格せらる。		
11.	東京天文台長が更迭、早乙女清房(才3代) → 関口鯉吉(才4代)	科学史研究 才17号	18350
11.	早乙女台長 → 関口鯉吉台長	学術大観 p.495	12044
11	早乙女清房が 東大名誉教授	科学史研究 才17号	18351
11. 6 18	五木一明(東京天文台)が 6月18日に、とら座新星を発見	科学史研究 才17号	18344
11. 6. 19	皆既日食の観測、昭和11年6月19日 北海道 観天文台の観測列北極圏	学術大観 p.54 (天文台研究)	12081
11. 6. 19	北海道東北部で6月19日に皆既日食、東大、京大、東北大、慶応大学の天文、地球物理学関係研究機関の総動員。	科学史研究 才17号	18342
11. 6. 19	皆既日食	学術大観 p.495	12043
11. 6. 19	皆既日食の観測 昭和11年6月19日 北海道東北部 早乙女(候補)	学術大観 p.558	12001
11.	日食観測のたの草大判(山本一清一行)のハリヤのトラスへ出張	科学史研究 才18号	18348
11.	北海道日食観測のたの F. J. M. Stratton, R. O. Redman, F. W. Astor, A. D. Thackeray, T. R. Rorvds, R. A. Bagnold 和	科学史研究 才17号	18347
11.	日食観測のたの草大判(荒木俊馬一行)の灌漑川河馬へ出張	科学史研究 才17号	18343
11. 7. 5	東京天文台報才四卷才三冊(才15号)発行 6月19日の皆既日食観測の概況報告 ・関口台長の序文 ・各地に派遣された観測隊の概況報告8篇 ・日食当時の特別報時に関する報告	月. 29-9, p.160 (0211.7)	1018
11. 7. 17	下保 恭が 7月17日に 小獅子座に下保彗星を発見	科学史研究 才17号	18345
11. 7. 17	彗星の発見 昭和11年7月17日 1936 III 彗星発見(下保)	学術大観 p.531	12013 (100年誌号1936)
11. 10. 4	岡林 滋樹(東京文豪)が 10月4日に 射手座新星を発見	科学史研究 才17号	18346
11. 11. 1	小倉伸吉が「死去」(明治17年生 海軍水路部技師として経度測量、潮汐研究に業績)	科学史研究 才17号	18352
11.	「四報」発行。彗星、新星等の発見又は観測資料に関する国内速報	学術大観 p.497	12034
11.	東京天文台四報の発刊	科学史研究 才17号	18353

年	月	号	要	項	出	賞	加付No.
11		(1936)	学界消息				
11	3	31	東京天文台長 早乙女清房 停年制により帝国大学教授の職を退き、東京天文台長職を退く。		月. 29-5	奉送券 (0211.5)	532
11	4	15	中央气象台技師 関口鯉吉 4月15日付 東京帝国大学教授に任ぜられ 東京天文台長に附せらる。				
11			東京天文台長が更迭、早乙女清房(才3代) → 関口鯉吉(才4代)		科学史研究	才17号	18350
11			早乙女台長 → 関口鯉吉台長		学術大観	p.495	12044
11			早乙女清房が 東大名誉教授		科学史研究	才17号	18351
11	6	18	五木一明(素天文家)が 6月15日に、とら座新星を発見		科学史研究	才17号	18344
11	6	19	皆既日食の観測。昭和11年6月19日 北海道 軽文台の観測 測到北極星。		学術大観	p.54 (天文部刊)	12081
11	6	19	北海道東北部で6月19日に皆既日食、東大、京大、東北大、廣島大等の天文、地球物理学関係研究機関が総動員。		科学史研究	才17号	18342
11	6	19	皆既日食		学術大観	p.495	12043
11	6	19	皆既日食の観測 昭和11年6月19日 北海道東北部 早乙女地(成田)		学術大観	p.558	12081
11			日食観測のたの草大班(山本一清一行)シベリヤのオムスクへ出張		科学史研究	才18号	18348
11			北海道日食観測のたの F. J. M. Stratton, R. O. Redman, F. W. Astom, A. D. Thackeray, T. R. Rowds, R. A. Bagnold 和		科学史研究	才17号	18347
11			日食観測のたの草大班(荒木俊馬一行)が 滿州州庁へ出張		科学史研究	才17号	18343
11	9	5	東京天文台報才四卷才三册(才15号)発行 6月19日の皆既日食観測の概況報告 ・ 関口台長の序文 ・ 各地に派遣された観測隊の概況報告8篇 ・ 日食當時の特別報時に関する報告		月. 29-9,	p.160 (0211.7)	1018
11	7	17	下保 恭が 7月17日に 小獅子座に下保彗星を発見		科学史研究	才17号	18345
11	7	17	彗星の発見 昭和11年7月17日 1936 III 彗星発見(附録)		学術大観	p.531	12013 (100年記念誌1936)
11	10	4	岡林 滋樹(素天文家)が 10月4日に 射手座新星を発見		科学史研究	才17号	18346
11	11	1	小倉伸吉が 死去。(明治17年生 海軍水産部技師として 測量、潮汐研究に業績)		科学史研究	才17号	18352
11			「四報」発行。彗星、新星等の発見又は観測資料に関する国内速報		学術大観	p.497	12034
11			東京天文台回報の発行		科学史研究	才17号	18353

昭和	要 項	出 典	カト'No
11 (1936)			
11	東京天文台で塔望遠鏡用迴折格子を置入	科学史研究 才17号	18349
11	昭和11年度の實驗・測定器 ワイスの自記測微光度計, ジョハンの分光器, ヒルカーの水晶分光器, ヴシエ・ジュネウアズの内視測微計	学術大観 p.496	12040
11	東北大天文学教室で8吋鏡を据付 (日本光学製)	科学史研究 才17号	18341
11	水沢清彦観測所を国際天文同盟緯度変化部中央局と併 置し(伊カルロナルテ観測所が継承), 以後訂算中央局 として活躍	科学史研究 才17号	18340
11	職員 (昭和10年のついでにない人) 会長 関口鯉吉	東京帝国大学一覽 昭11	16081
11	職員 (昭和10年度のついでにない) 教頭 碓氷石	東京帝国大学一覽 昭9余白	16080
11	昭和11年に行われている研究 レフォルド子午儀, ゴーケ子午環 — 天体の位置測定 ブラッシー — 天体写真儀 — 小惑星, 彗星等の位置の写真的 測定及び搜索 彗星搜索儀 — 彗星, 新星の搜索, 変光星の光度変化の監視観測 65 cm 赤道儀 — 星辰の測光, 分光学的研究 20 cm 赤道儀, 太陽写真儀 — 太陽面諸現象の観測 塔望遠鏡 — 太陽の分光学的研究 その他内外の観測材料より, 諸種の理論的研究, 彗星の 軌道, 日食, 星の掩蔽等より得られた位置に関する研究.	学術大観 p.995	12042

昭和	年	月	日	事項	出典	頁No
12	(1937)					
12	1			彗星の発見 Daniel 周期彗星 (広瀬の推算)	学術大観 p.531	12013
12				上記周期彗星の位置を本報秀雄(東京大学)が計算干渉(清水一が観測)し以て	科学史研究 才17号	18356
12	2	25		土地測量に以て東京天文台 8238 坪、新南天文台 142 坪増加あり	東京大学一覽 昭14-45	16037
12	6	8		南米ペルーで 6月8日に皆既日食、京大 山本一清、荒木俊馬、 茶田功次が出張観測	科学史研究 才17号	18355
12				五味一明、下保茂、岡林滋樹が日本天文学会より天体発見賞を受く。	科学史研究 才17号	18359
12				五味一明がアメリカ変光星観測者協会よりヒッパケリンゲ賞牌を受く	科学史研究 才18号	18360
12				鈴木敬信、東京科学博物館にて変光星の写真観測研究の目的 研究費の補助を受く	科学史研究 才18号	18361
12				滿洲州及台湾で西部標準時を廢止して中央標準時を採用 (軍事的便宜のため)	科学史研究 才17号	18365
12				朝鮮總督府観測所編：陰陽対照表	科学史研究 才17号	18364
12				Weekly Bulletin of Solar Phenomena. 太陽面現象の電波物理学、気象学等と密接な関連を有するに鑑 み、毎週一回国内の各研究所に連絡する。	学術大観 p.497	12033
12				東京天文台で Weekly Bulletin of Solar Phenomena を発刊	科学史研究 才17号	18363
12				東京天文台で天文学文献を發行	科学史研究 才17号	18362
12	4			「年報才又輯」久しく中絶状態にあった年報を復活	学術大観 p.497	12032
12				木村 榮 初の文化勲章を受く	科学史研究 才17号	18358
12				広瀬秀雄が小惑星 1937 WM を発見	科学史研究 才17号	18357
12				大阪市電氣博物館に「アインシュタインの完成」	科学史研究 才17号	18354
12				学界消息 東京帝国大学助教授、東京天文台技師 藤田良吉、東京帝国 大学講師となる。大学院学生 広瀬秀雄 東京天文台に於て天体 写真観測に従事しているが、今回東京天文台より天体観測を廢止 した。又長次郎も東京天文台より天体分光観測を廢止した。	月. 30-5, p.88 (昭12.5)	533
12				日中事変勸告	天文台 100 周年誌 昭12年巻1	

戦争中休刊 (元台100周年誌)
昭和16年中断刊
(天文台100周年誌)

昭和	要 項	出 典	p-t No.
13 (1938)			
13. 8	台長候補者 一、理学部長と天文学教授、協議 = 何れ推薦ス。 二、任期1年	研究所関係職員 候補者推薦内規昭3	15006
13	萩原雄祐及び山本一清(科学史研究18号で訂正)がストックホルム の国際天文同盟第6回総会に出席	科学史研究 第17号	18369
13	太陽の分光学的観測、塔望遠鏡の装置が全能力を發揮し 得る状態となつた。	学術大観 p.514	12019
13	太陽黒点部の炭水化合物の吸収バンドの分析研究(田中)	学術大観 p.514	12019
13	東京天文台年報附録を Tokyo Astronomical Observatory Reprints と改題	科学史研究 第17号	18370
13	年報附録を改題して Tokyo Astronomical Observatory Reprints とする	学術大観 p.477	12031
13	荒木俊馬が京大天文学教授	科学史研究 第17号	18368
13	東京日日新聞社天文館の開設し、タイプ製つらりウチカ 公開	科学史研究 第17号	18366
13 8 1	新城新蔵が8月1日に死去(京大宇宙物理学教室の開設及び 充実に業績)	科学史研究 第17号	18367
13 9 4	長田政一(昭和6年醫學雑誌)が9月4日米国で死去	科学史研究 第1号	18071
13	研究所関係職員(高等官・高等技官)候補者推薦内規制定	天文台100周年年報54	

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp